

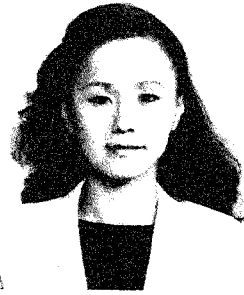
日中友好青年の翼に参加して

都留市からも三人が参加した「第六回日中友好青年の翼」は、二週間の交流日程を終えて十一月六日に帰国しました。この三人に、目で見えた中国の印象を語ってもらいました。

『我們是朋友』

ふれ合いの輪を広げよう

中央二丁目 岩間美千子



あらゆる方面での交流を深めようという、青年の翼の主旨に従い私共グループは、『我們是朋友』をスローガンに、多くの中国人と接触しようと簡単なダンスを随所で発表し沢山の人々に参加していただきました。楽しく一緒に踊る人、そのダンスの輪を眺める黒山の人だかり、しかし、その外にじっと見すえられた警備兵の眼ノ一挙手一投足まで管理されている中国の一面を

かい間見てしまいました。そして生活水準の低さは想像を絶するものでした。

そうした中で人々は、黙々と働いています。繁栄の頂上に存在している事実を私達は認識しなければなりません。日本の良さを痛感した十三日間、こうした貴重な体験は、今後に役立てなければなりません。



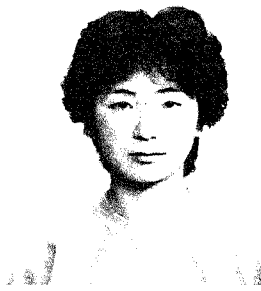
▷ 百花園でキンモクセイを記念植樹

せん。

中国は、古い記憶の中に戻った様な懐しさを感じさせる国です。必ず再びあの大地を踏みしめたい!! 一衣帯水とは本能的に得た言葉です。

西安での朝

田野倉 田辺恵子



中国の人々は、私達の訪問に好意を持って迎えてくれました。十月二十九日、朝六時二キロのマラソンで始まり、ホテル前の道路分離帯で団員みんなで『アブラハムの踊り』をし、その後散歩に出かけ少し脇道へ入りました。レンガ造りの二階のベランダに子供二人と母親らしい人がこっちを見ている。私が『你好』(こ

んにちは)とあいさつ、その人は少し戸惑っていましたが笑顔で『你好』と答えてくれました。私達は、通訳の方を通して、日常生活の事、日本の事などについて尋ねてみました。笑顔でいろいろ話をしてくれました。おじいさんとおばあさんの部屋へ招いてくれ、一緒に写真をとったりし、西安での朝を楽しく有意義に過ごさせてもらいました。

『謝謝』(ありがとう)

私を感じた中国

つる二丁目 原 公子



海外にいったことのない私にとって、第六回日中友好山梨県訪中青年の翼はとても有意義でした。北京に着くまで体の中は不安と緊張でいっぱいでしたが、いざ着いてみると、まだ国内にいるような錯覚にとらわれました。見学したお寺も、街にいる人々もど



◁ 西安の小学校
日本のラジオ体操みたいであった

こかで見たようで、とても親近感をおぼえました。

その中で中国という国のスケールの大きさ、大陸らしさには驚かされました。一番不安だったのは、言葉のわからない私が中国の人々とどう接触できるかでした。覚えたての片言の中国語、身振り手振り、時には筆談を交えての私の行動に、中国の人々が暖かい笑顔で答えてくれたのが深く印象に残っています。

多くの方々の暖かい思いやりと、ご協力のもと訪中できました事に深く感謝申し上げます。